

# 第〇学年 理科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (×) ◇校時  
 仙台市立〇〇〇〇〇学校  
 指導者 職名 〇〇 〇〇  
 場 所 ◇年◇組 教室

## 1 単元名

## 2 単元の目標

目指す児童の姿で記述する。

※ 学習指導要領の目標や指導内容を基に記述する。

## 3 単元の評価規準

※ 単元の目標に準拠した評価なので、ここに記述する。文末表現は常体で「～する。」と記述する。

※ 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）を参考に観点ごとに記述するとよい。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 「～している。」 「～できる。」 ②… 例 「～理解している。」 「～記録している。」	① 「～している。」 ②… 例 「～表現するなどして問題解決している。」	① 「～しようとしている。」 ②… 例 「～問題解決しようとしている。」 「～生活に生かそうとしている。」

## 4 指導にあたって

(1)～(3)までのつながりを考えて書くことが大切です。

### (1) 単元について（教材観）

※ 指導する立場で、単元をどのように捉えるか、児童の発達段階との関わりから捉えた単元（教材）の特質や意味等に触れる。

例「学習指導要領との関連」→「教材の系統性」→「教材の内容や選択した理由」→「発達段階の教材の特質等」の順番で書いていく。

※下線部は学習指導要領解説理科編を参考にする。

こんな教材で

### (2) 児童の実態（児童観）

※ 単元（教材）に関する児童の受け止め方や意識などの実態を分析する。

→ 分析を通して、児童のプラス面、マイナス面を明らかにする。

※ 実態を基に、これまでの指導の在り方を見つめ、指導の方向性を書きたい。

→ 指導者としての「思い」・「願い」を強調したい。

※ 興味・関心を調べる時には、「なぜ・いつごろから」という項目を。

→ この記述内容は、教師の指導法の改善の大きなヒントになりうる。

こんな児童だから

### (3) 指導にあたって（指導観）

※ 指導にあたっての見通しや意図を明確にする。

※ 単元の目標や『教師の願い』を達成するために、どこで、どのような指導や支援の手立てをとるのかを単元全体を見通して具体的に書く。

こう指導したい

⇒ 「身に付けさせたい力，育てたい児童の姿」を明示したい。  
単元の目標を受けて、「単元全体+単位時間ごと」に記述する。

### 5 研究テーマとの関わり ※ 不要の場合は省略

校内研究テーマ「○○○○○○○」

○ 視点1 ~~~~~の工夫

研究テーマと本単元の関連について書く。

○ 視点2 ~~~~~の工夫

### 6 指導と評価の計画 (○時間扱い 本時△/○)

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	○ ○	態		[態①]・・・・・・・・ (学習の様子を観察)
2	○	思	○	[思①]・・・・・・・・ (ノートの記述の分析)
3 本時	○	知	○	[知①]・・・・・・・・ (記録の分析)
5	○	思		[思②]・・・・・・・・ (ノートの記述の分析)

#### 【留意点】

- ・ 主に、3・4を受けて単元でどのような学習（指導）や評価を行うのかを示す。「単元の評価規準+単元の捉え方+児童の実態」を基に、4の（3）に記述したことを、1時間ごとに分けて書く。
- ・ 時間  
例えば「6時間扱い」なら、その6時間を単位時間ごとに分ける。基本的には1時間ごととなるが、指導内容によっては2～3時間もあり得る。
- ・ ねらい・学習活動  
その時間で達成するねらいを記述。「授業後の児童の姿」で書く。語尾は「～できる。」となる。学習活動については、1時間ごとの学習内容を「児童の立場」で書く。語尾は「～する。」となる。
- ・ 重点  
児童の学習状況を確認する際、重点とする観点  
知・・・知識・技能，思・・・思考・判断・表現，態・・・主体的に学習に取り組む態度
- ・ 記録  
○は、備考に記入されている評価規準に照らして、児童全員の学習状況を記録に残す場面
- ※ 第3学年で主に育成を目指す問題解決の力は「思考・判断・表現①」で評価するため、第9時での「思考・判断・表現②」の観点は、特徴的な児童の学習状況を確認し、今後、別単元で児童全員の学習状況の評価（「思考・判断・表現②」）を行う際の基礎資料となるようにする。
- ・ 備考  
3で作成した「単元の評価規準」を基に、観点別に1時間ごとの具体的な評価規準を作成する。  
1時間ごとの目標（ねらい）との整合性に留意する。

→ 「指導と評価の一体化」(指導をすれば、必ず評価が必要となる。)

評価方法とは、その観点をどのようにして評価するかの手立て。

→ 一般的には、発表・話し合いの様子・ノート・ワークシートの記述内容など。効果的な机間指導を心掛け、その時間の中での評価を重視したい。座席表の活用が有効。

### 例 主体的に学習に取り組む態度

○ 小学校3学年の一例：単元名「じしゃくにつけよう」

\* 単元の評価規準

例：「磁石の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。」



\* 1時間ごとの具体的な評価規準

例：「磁石につく物を調べる活動に進んで取り組み、友達と予想や実験結果を互いに伝え合いながら、問題解決しようとしている。」(発言・行動)

## 7 本時の指導

### (1) ねらい

※ 6の②で記述したものを転記する。評価の観点も記述する。

### (2) 本時の指導にあたって

※ 4の(3)をより具体的に記述する。『本時は、「～のねらい(目標)」を達成するために、「～のような手立て」で指導する。その時に、～の場面では～をして(指導上の工夫・改善点を中心に)、児童の～を高め(身に付けさせ)たい。』

※ 校内研究との関連がある場合はその関連を踏まえ、ねらいを達成するための手立てを簡潔に記述する。

### (3) 準備物

※ 教師用、児童用に分けて記述するとよい。また、必要な実験器具等について使用する数も具体的に記述する。予備実験をしておく、必要な実験器具等が明確になる。

### (4) 指導過程

段階	主な学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
導入 ○分	1 ～する。 目標(めあて)の把握 ※ 本時の学習を「見通す」 ・ 何が分かるようになればよいのか。 ・ 何ができるようになればよいのか。	・ ・ ※ 十分満足できると判断される児童から支援が必要とされる児童まで、できるだけ多くの児童の反応を想定して記述する。	・ [態]・・・・・・・・ (学習の様子の観察) ※ 1時間あたり、1～2以内に絞る。(できれば一つ。)
展開 ○分	2 ※ 端的に書く。 3		

	4 5		
終末 ○分	6 学習したことの確認 ※ 学習したことを振り返る ・何が分かったのかな。 ・何ができるようになったのかな。 ・次の時間はこんなことやりたいな。 次時への見通しを持たせる。		

#### (5) 評価

本時の評価規準	※ 本時のねらいを概ね達成する評価規準について記述する。
十分満足できると判断される児童の姿	※ 「本時の評価規準」以上の評価規準について記述する。
支援が必要と判断される児童への手立て	※ 基礎・基本の確実な定着の観点から、支援を要する児童への具体的な指導の手立てを記述する。

#### 【記入上のポイント】

- ・ 「支援が必要と判断される児童への手立ては」、該当児童を「本時の評価規準」に達する段階までに高めるための指導の手立てとなる。授業のどの段階で、どのような支援を行うか具体的に書く。  
例：「机間巡視での具体例を示した声掛け。」「ペア学習で説明し合う活動を行う。」など

#### (6) 板書計画

#### 【記入上のポイント】

- ・ 授業後に児童が学習内容を振り返ることができるような、ポイントが明確な板書を心がける。
- ・ 黒板が2面ある場合はその形で板書計画を立てる。
- ・ ICTの活用がある場合は、併せて記述する。
- ・ 思考力・判断力を育てるために児童が自分の考えを記述する部分を設定する。100%視写するのが板書ではない。自分の考えを記述するだけでなく、気付いたことや他の児童の発言をメモすることができるようにする。

## 指導案の評価に関する留意事項

### ◎ 指導と評価の一体化の視点から (指導案の抜粋)

○ 単元の目標を受けて、単元の評価規準を作成する。  
(参考:「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料)

#### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 「～している。」 「～できる。」 ② …… 例 「～理解している。」 「～記録している。」	① 「～している。」 ② …… 例 「～表現するなどして問題 解決している。」	① 「～しようとしている。」 ② …… 例 「～問題解決しようとしている。」 「～生活に生かそうとしている。」

○ 単元の評価規準を受けて、  
本時の具体の姿として書く。

#### 6 指導と評価の計画

時間	○ねらい・学習活動	重 点	記 録	備考
1	○	態		[態①] …… (学習の様子を観察)
2	○	思	○	[思①] …… (ノートの記述の分析)
3 本時	○	知	○	[知①] …… (記録の分析)
5	○	思		[思②] …… (ノートの記述の分析)

○ ねらいと評価規準に整合性を持たせる。

#### 7 本時の指導

(1) ねらい

○ 同じ文章を書く。

○ 同じ観点を書く。

○ …… (主体的に学習に取り組む態度)

#### (5) 評価

本時の評価規準	○ ……
十分満足できると判断される児童の姿	

- 指導と評価の計画が充実していると、各授業で児童にどのような力を付けさせたいか(身に付いたか)が明確になる。
- 学習状況の評価を基に、指導改善を図ることができる。
- 単元の評価規準を各授業に位置付けることで、身に付けさせたい力の漏れがなくなる。